

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題 29-c002
2. 研究テーマ名 「観光資源としての八ッ場ダムの特徴と活用法」
3. 研究期間 平成29年8月1日 ～ 平成30年3月22日
4. 研究代表者 工学部／社会環境工学学科 教授 森田 哲夫
5. 課題提案者 川原湯温泉観光協会

6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

八ッ場ダムは、平成31年頃に湛水が開始される見込みであり、移転住民の生活再建、新市街地のまちづくり、そしてダムを活用した観光まちづくりが急務である。本研究課題では、観光資源としての八ッ場ダムおよび周辺資源の魅力を明らかにし、その活用法を提言した。

本研究では研究会を組織し、事前検討会、第1～3回研究会を実施し検討を進めた。また、八ッ場ダム周辺、先進事例である宮ヶ瀬ダム、旧信越本線、水陸両用バスを視察した。

研究会で検討した提案項目は、次の9項目である。

- 【案1】魅力あるダム湖畔の創出
- 【案2】湖畔エリアの楽しい乗り物
- 【案3】ダムの楽しみ（食と？）
- 【案4】ダム湖面の活用（カヌーなど）
- 【案5】吾妻線・廃線めぐり
- 【案6】新たな景観の活用（水陸両用バス）
- 【案7】八ッ場ダム周辺への定住
- 【案8】八ッ場ダムめぐり
- 【案9】周辺観光地との周遊観光

平成30年3月22日、前橋元気プラザ21にて「まちなかキャンパス」を開催し、研究成果を発表した。

- 1)八ッ場ダム湖面に映える橋梁群…辻幸和（前橋工科大学 前学長 名誉教授）
- 2)群馬県の観光入込客数と八ッ場ダム周辺観光…（社会環境工学科4年）
- 3)群馬県中山間地域の交通生活と生活圏域…（社会環境工学科4年）
- 4)観光資源としての八ッ場ダムの活用…森田哲夫（社会環境工学科 教授）

本研究における提案内容は、次の3つに整理できる。

1 観光エリア・ポイントの設定、観光エリア間の連携



2 観光エリアの魅力づくり



3 周辺観光地との周遊観光の促進(ハッ場ダムは好立地)

